

## 並行する警告 — その二

預言のタペストリーを解き明かす：ミラー派の歴史と現代における黙示録14章のメッセージを読み解く

Jeff Pippenger

2023-08-08

十人の乙女のたとえがミラー派の歴史の中で成就したのは、第二の天使のメッセージの期間中であつた。第二の天使のメッセージは、扱う期間とメッセージの対象という両面において、二つの別個のメッセージを表している。第二の天使のメッセージは、ローマへと戻りバビロンの娘となったプロテスタント諸教会に向けられていた。真夜中の叫びは、眠っていたミラー派の人々に向けられていた。第一のものはミラー派の外部に、第二のものは内部に向けられた。これは私たちの時代に文字どおり成就するだろう。

私たちの時代における繰り返しの中で留意すべき相違点は、アドベンチズムの初期には、第二天使のメッセージがまずミラー派の外へ向けられ、その後にそのメッセージの第2の部分がミラー派の内部に向けられたということである。アドベンチズムの終わりに、たとえ話が再び繰り返される時、第二天使のメッセージもまた同様に繰り返される。このことは明確に何度となく示されていると私たちは教えられている。しかし、そのメッセージの二重の性質は終わりには逆転する。第一の部分はアドベンチズムに向けられ、第二の部分はアドベンチズムの外にいる人々に向けられる。黙示録18章の天使が表す働きとメッセージは、第二天使のメッセージの繰り返しであると私たちは教えられている。

預言者は言う。「私はもう一人の天使が天から降りてくるのを見た。大いなる權威を携え、その栄光によって地は照らされた。そして彼は力強い大声で叫んだ、『大バビロンは倒れた、倒れた。悪霊の住みかとなった』」（黙示録 18:1, 2）。これは第二の天使によって与えられたのと同じメッセージである。バビロンが倒れたのは、「彼女がその淫行の怒りのぶどう酒をすべての国々に飲ませたからである」（黙示録 14:8）。そのぶどう酒とは何か——彼女の偽りの教義である。彼女は第四戒の安息日の代わりに偽りの安息日を世に与え、また、エデンでサタンが最初にエバに語った虚偽——魂の自然不死——を繰り返してきた。これに類する多くの誤りを彼女は広く広め、「人間の命令を教義として教えている」（マタイ 15:9）。

イエスが公の宣教を始められたとき、神殿を冒瀆による汚れから清められた。宣教の最後の行為の一つは、神殿の二度目の清めであつた。同様に、世に警告を与える最後の働きにおいて、教会に対して二つの明確な呼びかけがなされる。第二の天使のメッセージはこうである。「倒れた、倒れた、大いなる都バビロンは、彼女はその姦淫の怒りのぶどう酒を諸国の民に飲ませたからである」（ヨハネの黙示録14章8節）。そして第三の天使のメッセージの大いなる叫びの中で、天からこう言う声が聞こえる。「わたしの民よ、彼女から出て来なさい。彼女の罪にあずからず、その災いを受けないために。彼女の罪は天にまで達し、神は彼女の不義を覚えておられるからである」（黙示録18章4、5節）。『セレクトッド・メッセージズ』第2巻、118頁。

アドベンチズムの初めに与えられた第二の天使のメッセージは、黙示録18章の天使によって象徴されるメッセージと同じであり、その警告の中にはメッセージを告げる二つの声がある。最初の声は、地が彼の栄光によって照らされるときに告げられ、四節でヨハネは「彼女の中から出て来なさい」と言う別の声を聞いた。

ミラー派の歴史では、まずバビロンから出て来よという呼びかけがあり、ミラー派へのメッセージはその次であった。黙示録18章では、第二の声、すなわち第二のメッセージが、アドベンチズムの外にいる人々に向けられている。「教会に対して二つの明確に異なる呼びかけがなされている」という宣言とともに、キリストが神殿を二度清められたこと（公生涯の初めと終わり）は、アドベンチズムの始まりと終わりを示す例でもあることが分かる。

アドベンチズムの始まりは、ウィリアム・ミラーが用いられて打ち立てた土台を築くのを助けた働き人たちの清めを示した。その土台は第二の天使のメッセージの終わりに完成した。というのも、1844年10月22日に第三の天使が到来し、聞こうとする者には、アドベンチズムの土台を成す諸真理が理解できるようにされたからである。

基礎を築く働きは、「教会に対して二つの明確な呼びかけがなされた」とき、第二の天使の歴史の頂点で完結した。最初の呼びかけはミラー派の外部に向けられ、第二の呼びかけはミラー派に向けられた。しかし、アドベンチスト運動の始まりと符合するもう一つの始まりは、キリストが最初に神殿を清められたときのご自身の宣教の働きである。神殿が清められるという預言的な象徴は、彼の宣教の初めと終わりにおける浄化を示しており、それがさらに、アドベンチスト運動の始まりと終わりにおける浄化を予表している。キリストの二度の神殿清めはアドベンチスト運動の始まりと終わりに符合するが、彼のメッセージは、神との永遠の離縁へと向かっていた契約の民にのみ向けられていた。

アドベンチズムの始まりは審判の開始を告げるメッセージを掲げ、アドベンチズムの終わりは審判の終結を告げている。イエスは最初に神殿を清め、ご自分の家を強盗の巣にしたとしてユダヤ人を叱責されたが、二度目の神殿清めは「その公生涯の最後の行為の一つ」であった。ご自身の働きの終わりには、もはやユダヤ人に彼らが御父の家を強盗の巣にしたとは言われず、むしろ彼らに向かって、彼らの家は「見捨てられて荒れ果てる」と告げられた。

その間、あらゆる国々からの礼拝者たちが、神の礼拝のために奉献されたその神殿を訪れた。金や宝石に輝き、その美と壮麗さは目を奪う光景であった。しかし、その麗しさに満ちた宮殿のうちに、もはやエホバを見いだすことはできなかった。民族としてのイスラエルは自ら神と離縁していた。やがて地上での働きの終わりが近づいたとき、キリストが最後に神殿の内部を見おさめられ、こう言われた。「見よ、あなたがたの家は荒れ果てたままにしておかれる。」マタイ23:38。それまで彼はその神殿を「わたしの父の家」と呼んでおられた。しかし、神の子がその壁の中から出て行かれたとき、神の臨在は、神の栄光のために建てられたその神殿から永遠に去った。使徒行伝、145。

初めに彼が清めた神殿は、終わりに彼が清めた神殿とは異なる神殿だった。最初の神殿は彼の父の家であったが、二つ目の神殿はユダヤ人の家であった。主は初めにアドベンチズ

ムと契約を結び、アドベンチストは彼の神殿の祭司となった。アドベンチズムの終わりには、彼らはもはや祭司ではなくなり、彼らの家は荒れ果てる。

第二の天使は二つのメッセージを表しています。これが、そのメッセージが「バビロンが二度倒れる」として表されている理由の一つです。これは、バビロンの倒壊が二度繰り返して告げられることの主たる理由ではありませんが、理由の一つではあります。どのようにしてそれが二つのメッセージなのでしょう。

第一の天使のメッセージが拒絶されたことへの応答として、第二の天使が到来した。2300年の預言の満了を1843年と定めた予言が外れたとき、プロテスタント諸教会は、その誤ったメッセージを口実にミラーのメッセージを拒絶した。ミラーのメッセージは第一の天使のメッセージであった。その拒絶により、荒野で1260年以上にわたって神の教会であったプロテスタント諸教会は、退けられ、バビロンの娘となった。その時点で、第二の天使がそのメッセージを携えて到来した。

私たちが考察しているこの歴史のさまざまな要素には、いくつか非常に重要な要点が関わっています。少なくとも一つ、丁寧に掘り下げていかなければならない要点があります。というのも、それは現在封印が解かれつつあるイエス・キリストの啓示のメッセージの理解に確実に寄与するからです。このため、私はその歴史に関する非常に重要な箇所を取り上げます。指し示しているのは二つの章ですが、その二章の間には重要な第三の章もあります。ただし、考察の範囲を絞るため、今回はそれは取り上げません。

読み進めるにあたって、どの天使が取り上げられているかに注意し、段階的な試練の過程を探してください。最初の段落では、黙示録18章の天使の預言的特質が第一の天使の特質でもあることに留意してください。メッセージの一つを十字架につけることはキリストを十字架につけることだという点、また、三人の天使はいずれも単独の天使として示されている一方で、真夜中の叫びのメッセージは多数の天使によるものである点にも気づいてください。

天界全体が地上で進められてきた働きにどれほど関心を寄せているかが私に示された。イエスは強く力ある御使いに、下って地上の住民にご自分の再臨に備えるよう警告する務めをお与えになった。私は、その力ある御使いが天でイエスの御前を去っていくのを見た。彼の前を、非常に明るく栄光に満ちた光が先立って進んだ。彼の使命は、その栄光で地を照らし、やがて来る神の怒りを人間に警告することだと告げられた。多くの人々がその光を受け入れた。ある者は非常に厳粛に見え、またある者は喜びに満ち、感激に打たれていた。光はすべての者に注がれたが、ある者はその影響を受けるだけで、心から受け入れはしなかった。しかし、それを受け入れた者は皆、顔を天に向けて神を崇めた。多くの者は激しい怒りに満たされた。聖職者も民も邪悪な者たちと結託し、力ある御使いが放った光に頑強に抵抗した。しかし、それを受け入れた者は皆、世から退き、固く一つに結ばれた。

サタンとその御使いたちは、できるかぎり多くの人々の心を光から引き離そうと、熱心に働いていた。それを拒んだ者たちは闇の中に取り残された。私は、ひとりの御使いが、天からのメッセージが彼らに示されるに際し、神の民であると公言する人々を、彼らがどのような品性を形づくるかを記録するために、最も深い関心をもって見守つ

ているのを見た。そして、イエスへの愛を公言する非常に多くの者が、その天からのメッセージに対して侮蔑と嘲りと憎しみをもって背を向けたとき、手に羊皮紙を持ったひとりの御使いが、その恥ずべき記録を書き記した。イエスが自らの信奉者であると公言する者たちに軽んじられたので、天界全体は憤りで満たされた。

私は信じていた者たちの失望を見た。彼らは期待していた時に主を見なかった。未来を隠し、御自分の民を決断の岐路へと導くことは、神のご目的であった。この時の定めがなければ、神がご計画された働きは成し遂げられなかったであろう。サタンは多くの者たちの心をはるか未来へと導いていた。キリストの現れのために告げられた一定の期間は、人の心を、今なすべき備えを熱心に求めるところへと向かわせるものでなければならなかった。時が過ぎると、天使の光を十分に受けていなかった者たちは、天からのメッセージを侮っていた者たちと結び、失望した者たちに嘲りを浴びせた。私は、天にいる天使たちがイエスと協議しているのを見た。彼らは、キリストの信徒を自称する者たちの状況を見て取っていた。定められた時が過ぎたことにより彼らは試され、明らかにされた。そして非常に多くの者が天秤で量られ、不足ありとされた。彼らは皆、自分はクリスチャンだと大声で公言していたが、ほとんどあらゆる点でキリストに従うことに失敗していた。サタンは、キリストの信徒を自称する者たちの有様に歓喜した。彼は彼らを自分のわなにかけていた。彼は大多数を導いてまっすぐな道から離れさせ、彼らは別の道で天に上ろうと試みていた。天使たちは、純潔な者、清い者、聖なる者が、シオンにいる罪人や世を愛する偽善者たちと皆混じり合っているのを見た。彼らはイエスを真に愛する者たちを見守ってきた。しかし、墮落した者たちが聖なる者たちに影響を及ぼしていた。

イエスにお会いしたいと焦られるような強い渴望に心を燃やしていた人々は、同じ信仰を公言する兄弟たちによって、その来臨について語ることを禁じられた。天使たちはその一部始終を見守り、イエスの現れを愛する残りの者たちに同情した。さらに別の力ある天使が地に下るよう任じられた。イエスはその手に文書を授け、彼が地に来ると、「バビロンは倒れた！倒れた！」と叫んだ。すると私は、失望した人々が再び晴れやかな表情を取り戻し、天に目を上げ、主の現れを信仰と希望をもって待ち望むのを見た。しかし多くの者は眠っているかのように茫然とした状態のままであった。けれども彼らの顔には深い悲しみの痕が見て取れた。失望した人々は聖書から、自分たちが「遅れる時」にいて、幻の成就を忍耐して待たねばならないことを悟った。1843年に主を待ち望むに至らせたのと同じ証拠が、1844年にも主を期待させた。私は、大多数の者が1843年の彼らの信仰を特徴づけていたあの熱意をもはや持っていないのを見た。失望が彼らの信仰を冷ましてしまったのである。だが、失望した人々が第二の天使の叫びに一致して声を上げると、天の軍勢はきわめて深い関心をもって見守り、そのメッセージの効果を見定めた。彼らは、キリスト者の名を負う者たちが、失望した者たちに嘲りと侮りをもって向き直るのを見た。嘲る者の唇から「まだ上がっていないじゃないか！」という言葉がこぼれるとき、天使はそれを記録した。天使は言った、「彼らは神を嘲っている。」

私は、エリヤが天に上げられた出来事に再び目を向けるよう示された。彼の外衣はエリシャの上に落ち、邪悪な子どもたち（あるいは若者たち）が彼の後をついて来て、あざけて叫んだ。「上って行け、はげ頭よ！上って行け、はげ頭よ！」彼らは神を嘲り、その場で罰を受けた。彼らはそれを親から教えられていたのだ。そして、聖徒た

ちが上って行くという考えをあざけり、嘲ってきた者たちは、神の災いに見舞われ、神を侮ることがどれほど重大なことかを思い知るだろう。

イエスは別の天使たちに、御自分の民のしおれかけた信仰をよみがえらせて強め、第二の天使のメッセージと、間もなく天でなされる重要な動きを理解する備えをさせるため、すみやかに飛ぶようお命じになった。私は、これらの天使がイエスから大いなる力と光を受け、第二の天使の働きを助けるという任務を果たすため、すぐさま地上へ飛んでいくのを見た。天使たちが叫ぶと、神の民の上に大いなる光が輝いた。「見よ、花婿が来られる。出て行ってお迎えせよ。」それから私は、失望していた者たちが立ち上がり、第二の天使と歩調を合わせて、「見よ、花婿が来られる。出て行ってお迎えせよ」と宣言するのを見た。天使たちからの光は至る所の闇を貫いた。サタンとその天使たちは、この光が広がり、意図された効果を及ぼすのを妨げようとした。彼らは神の天使たちに争いを挑み、神が民を欺いたこと、またどれほどの光と力をもってしてもイエスが来られると人々に信じさせることはできないと告げた。サタンが道をふさぎ、人々の心を光からそらそうと努めたにもかかわらず、神の天使たちはその働きを続けた。それを受け入れた者たちはとても幸せそうで、目を天に注ぎ、イエスの現れを切望した。中には大いなる苦悩のうちに泣き祈っている者もいた。彼らの目は自分自身に注がれているようで、上を見上げることができなかった。

天からの尊い光が彼らから暗闇を退け、自分自身に絶望してうつむいていた彼らの目は天へと向けられ、その面差しのすべてに感謝と聖なる喜びが表れた。イエスと天使の軍勢は、忠実に待ち望む者たちに好意のまなざしを注がれた。

第一の天使のメッセージの光を退け、反対した者たちは、第二の光を失い、「見よ、花婿が来られる」というメッセージに伴った力と栄光によって益を受けることができなかった。イエスは彼らから御顔を背け、眉をひそめられた。彼らは彼を軽んじ、拒んだからである。メッセージを受け入れた者たちは、栄光の雲に包まれた。彼らは神の御心を知ろうと待ち望み、目を覚まして、祈った。彼らは御心を損なうことを大いに恐れた。私は、サタンとその天使たちが、この神的な光を神の民から遮ろうとしているのを見た。しかし、待ち望む者たちがその光を大切に、地上から目を離してイエスに向けているかぎり、サタンは彼らからこの尊い光を奪う力を持てなかった。天から与えられたこのメッセージは、サタンとその天使たちを激怒させた。また、口ではイエスを愛すると言いながら、その来臨を侮る者たちは、忠実に信頼する者たちを嘲り、あざけた。しかし御使いは、名ばかりの兄弟たちから彼らが受けたあらゆる侮辱、軽蔑、虐待をことごとく記録した。多くの者が声を上げて「見よ、花婿が来られる」と叫び、イエスの顕現を愛さず、その再臨について語ることを許そうとしない兄弟たちのもとを離れた。私は、イエスがご自身の来臨を拒み、侮った者たちから御顔を背けられるのを見た。そして、彼らが汚されないよう、汚れた者たちの間から民を連れ出すようと、御使いたちに命じられた。メッセージに従順な者たちは、解き放たれ、ひとつに結ばれて立った。聖く崇高な光が彼らの上に輝いた。彼らは世を捨て、世への愛着を引き裂き、地上的な利害を犠牲にした。彼らは地上の宝を手放し、愛する救い主を見ようと、切なるまなざしを天に向けた。聖く神聖な喜びが彼らの顔に輝き、その内に支配している平安と喜びを物語っていた。イエスは御使いたちに、彼らを強めに行けと命じられた。彼らの試練の時が近づいていたからである。私は、この待ち望む者たちが、受けるべきほどにはまだ試みられておらず、また誤りから自由ではな

いのを見た。さらに私は、神が地の人々に警告を送り、繰り返しメッセージを与えて彼らのある時点へと導き、自分自身を熱心に吟味させて、異教徒や教皇派から受け継がれてきた誤りを脱ぎ捨てさせようとしておられる、その憐れみと恵みを見た。これらのメッセージを通して、神はご自分の民を、より大いなる力で彼らのために働くことのできる所へ、また彼らが神のすべての戒めを守ることのできる所へと導き出してこられた……。

イエスの聖所における奉仕が終わり、彼が至聖所に入り、神の律法を納めた契約の箱の前に立たれたとき、彼は第三のメッセージを携えた別の力ある御使いを地上に遣わされた。彼はその御使いの手に羊皮紙を授け、御使いが威光と力をもって地に降りると、人類にかつて伝えられた中で最も恐ろしい脅しとなる、戦慄すべき警告を宣言した。このメッセージは、神の子らに警戒を促し、彼らの前にある試みと苦悩の時を示すためのものであった。御使いは言った、「彼らは獣とその像と激しい対決に追い込まれる。彼らが永遠のいのちに与る唯一の望みは、揺るがずにとどまることである。いのちが懸かっている、彼らは真理をしっかりと保たなければならない。」第三の御使いは次の言葉で自らのメッセージを結ぶ。「ここに、聖徒の忍耐がある。ここに、神の戒めを守り、イエスの信仰を守る者たちがいる。」彼がこれらの言葉を繰り返しながら、天の聖所を指し示した。このメッセージを受け入れるすべての者の思いは、イエスが契約の箱の前に立ち、なお憐れみがとどまっている者たち、そして無知のうちに神の律法を破った者たちのために最後の執り成しをしておられる至聖所へと向けられる。この贖いは、生きている義人だけでなく、死んだ義人のためにも行われる。イエスは、神の戒めに関する光を受けないまま無知のうちに罪を犯して死んだ者たちのためにも、贖いを行われる。

イエスが至聖所の戸を開かれた後、安息日の光が見え、神の民は、昔、イスラエルの子らとその律法を守るかどうかを見るために神によって試みられたように、試され、吟味されることになった。私は第三の天使が上を指し、失望していた者たちに天の聖所の至聖所への道を示しているのを見た。彼らは信仰によってイエスに従い、至聖所に入った。彼らは再びイエスを見だし、喜びと希望が新たに湧き上がった。私は、彼らが過去を振り返り、イエスの再臨の宣言から、1844年に時が過ぎたところに至るまでの旅路をたどっているのを見た。彼らは自らの失望が説明されるのを見て、喜びと確信が再び彼らを奮い立たせた。第三の天使が過去・現在・未来を照らし、神がまことにその不思議な摂理によって彼らを導いてこられたことを彼らは知った。

私には、残りの者たちがイエスに従って至聖所に入り、契約の箱と贖いの座を仰ぎ見て、その栄光に心を奪われるのが示された。イエスが契約の箱の蓋を持ち上げられると、見よ、そこには十戒が記された石の板があった。彼らはその生ける御言葉を一つひとつたどっていくが、十の聖なる戒めの中に第四の戒めが生きているのを見ておのき、身を引く。他の九つよりもいっそう明るい光がその上に輝き、その周りを栄光の光輪が取り巻いている。彼らは、安息日が廃止されたとか、週の初めの日に変更されたとか告げるものを、そこには何一つ見いださない。それは、稲妻がひらめき雷鳴がとどろく中、神ご自身の口から山上で厳粛に、畏るべき威厳をもって語られ、ご自身の聖なる指で石の板に書き記されたときと同じように記されている。「六日の間、あなたは労してすべてのわざを行わなければならない。しかし第七日は、あなたの神、主の安息日である。」彼らは、十戒がどれほど大切に取り扱われているかを見て驚

嘆する。彼らは、それらが主のすぐそばに置かれ、その聖さに覆われ、守られているのを見る。彼らは、自分たちが十戒の第四条を踏みじり、主によって聖別された日ではなく、異教徒とローマ・カトリック教徒から受け継がれてきた日を守ってきたことに気づく。彼らは神の前にへりくだり、過去の背きの罪を嘆き悲しむ。

イエスが彼らの告白と祈りを御父にささげられるとき、香炉の香が煙となって立ちのぼるのを見た。そしてそれが昇るにつれて、輝く光がイエスの上に、またあわれみの座の上にとどまった。神の律法の違反者である自分を見いだして心を痛み、切に祈っていた人々は祝福され、その顔は希望と喜びに輝いた。彼らは第三の天使の働きに加わり、声をあげて厳粛な警告を告げ知らせた。最初はこのメッセージを受け入れる者は少なかったが、彼らは力を尽くして警告を宣べ伝え続けた。やがて私は、多くの人々が第三の天使のメッセージを受け入れ、最初に警告を告げた者たちと声を合わせ、聖別された安息日を守ることによって神を高くあがめ、神を大いにたたえたのを見た。

第三のメッセージを受け入れた多くの人々は、前の二つのメッセージにおける経験を持っていなかった。サタンはこれを理解し、彼らを打ち倒そうとして悪意に満ちた目を向けた。しかし第三の天使は彼らに至聖所を指し示し、過去のメッセージで経験を持っていた者たちは、天の聖所への道を彼らに指し示していた。多くの人々が天使たちのメッセージの中にある真理の完全な連なりを見て、それを喜んで受け入れた。彼らはそれらを順序どおりに受け入れ、信仰によってイエスに従い、天の聖所へ入っていった。これらのメッセージは、全体をつなぎ留める錨として私に示された。そして個々がそれらを受け入れ理解するとき、彼らはサタンの数多くの惑わしから守られる。

1844年の大いなる失望の後、サタンとその天使たちは、全体の信仰をぐらつかせるための罠を仕掛けることに熱心に従事していた。彼は、これらの事柄に個人的な経験を持つ人々の心に働きかけていた。彼らは謙遜に見えた。彼らは第一と第二のメッセージを変更し、その成就を将来に指し示したが、他の者たちははるか過去を指し示し、そこで成就したと宣言した。これらの人々は、経験の浅い者たちの心を引き離し、その信仰をぐらつかせていた。ある者たちは、全体から独立した自分自身の信仰を築き上げようとして、聖書を調べていた。サタンはこれらすべてを喜んだ。というのは、錨から解き放たれた者たちは、さまざまな誤りによって影響され、教理の風に吹き回されることを彼は知っていたからである。第一と第二のメッセージを先導していた多くの者がそれらを否定し、分裂と散乱が全体に広がった。私はそのときウィリアム・ミラーを見た。彼は当惑した様子で、自分の民のための悲しみと苦悩にうなだれていた。彼は、1844年に一致し互いに愛し合っていた一団が、互いへの愛を失い、互いに反対し合うのを見た。彼は彼らが冷たく、霊的に後退した状態に逆戻りするのを見た。悲しみが彼の力を消耗させた。私は指導者たちがウィリアム・ミラーを注視し、彼が第三天使のメッセージと神の戒めを受け入れるのではないかと恐れているのを見た。そして彼が天からの光のほうに傾くたびに、これらの人々は彼の心を引き離すための何らかの策をめぐらした。私は、彼の心を暗闇にとどめ、彼の影響力を彼らの間に保持するために、人間的な影響力が行使されているのを見た。やがてウィリアム・ミラーは天からの光に反対して声を上げた。彼は、自らの失望を十分に説明し、過去に光と栄光を投げかけ、彼の消耗した力を回復させ、希望を明るくし、神をあがめるよう導いたであろうメッセージを受け入れなかった点で失敗した。しかし彼は、神の知恵ではな

く人間の知恵に頼った。また、主のための骨の折れる働きと老齢によって弱っていたため、彼を真理から遠ざけた者たちほどには責任を負うべきではなかった。責任は彼らにあり、その罪は彼らの上にとどまる。もしウィリアム・ミラーが第三のメッセージの光を見ることができていたなら、彼には暗く神秘的に見えた多くの事柄が説明されたであろう。彼の兄弟たちは彼に対する深い愛と関心を公言していたので、彼は彼らから引き離れることはできないと思った。彼の心は真理のほうに傾くのだが、そのたびに彼は兄弟たちを見た。彼らはそれに反対した。イエスの来臨を宣べ伝える働きで、彼と肩を並べて立ってきた者たちから、彼は引き離れることができたろうか。彼は彼らが自分を迷わせるはずがないと考えた。

神は彼がサタンの力のもとに入るのを許し、死が彼を支配するのを許された。神は彼を墓に隠し、絶えず彼を神から引き離していた者たちから彼を遠ざけた。モーセは、約束の地に入ろうとしていたまさにその時に、過ちを犯した。同様に、私は、Wm. Miller が、まもなく天のカナンに入ろうとしていたとき、自らの影響力が真理に逆らうようになるのを許すという誤りを犯したのを見た。ほかの者たちが彼をこうさせた。このことについてはほかの者たちが責任を負わなければならない。しかし、天使たちはこの神のしもべの尊いちりを見守っており、最後のラッパの響きとともに彼はよみがえるだろう。

私は、守りを固めて堅く立っており、群れの確立された信仰を動揺させようとする者をいささかも容認しない一団を見た。神は彼らを是認してご覧になった。私は三つの段階—一、二、三—すなわち第一、第二、第三の天使のメッセージを示された。天使は言った、「これらのメッセージの中の一つの石を動かし、一本の釘を揺るがす者に災いあれ。」これらのメッセージの真の理解は死活的に重要である。魂の運命は、それらがどのように受け取られるかにかかっている。私は再びこれらのメッセージをたどって導かれ、神の民がどれほどの代価を払って自らの経験を得たかを見せられた。それは多くの苦難と激しい戦いを通して得られたものであった。神は彼らを一步一步導き、ついには彼らを堅固で動かされない土台の上に置かれた。次に私は、人々がその土台に近づき、その上に踏み出す前に基礎を検分するのを見た。ある者は喜びつつ直ちにその上に踏み入れた。別の者は、その土台の据え方に不平を言い始めた。改良が施されれば、その土台はより完全になり、人々はもっと幸せになるだろうと望んだ者もいた。ある者は土台から降りてそれを調べ、誤って据えられていると断じてあれこれと非難した。私は、ほとんどすべての者がその土台の上に堅く立ち、降りてしまった者たちに不平をやめるよう勧めているのを見た。神こそが棟梁であり、彼らは神に逆らっているのだと。彼らは、自分たちをその堅固な土台へと導いた神の驚くべきみわざを語り、そして一致して、ほとんどすべての者が天に目を上げ、大声で神をあがめた。これが、不平を言って土台から離れていた幾人かに感化を与え、彼らはへりくだった面持ちで再びその上に踏み上がった。

私はキリストの初臨の宣言へと立ち返るよう示された。ヨハネは、イエスの到来の備えをするために、エリヤの霊と力をもって遣わされた。ヨハネの証しを拒んだ者たちは、イエスの教えから益を受けることがなかった。彼の初臨の宣言に対する彼らの反対は、彼がメシアであることの最も力強い証拠を容易に受け入れられない立場に彼らを置いた。サタンは、ヨハネのメッセージを拒んだ者たちをさらに進ませ、イエスをも拒み、彼を十字架につけるように仕向けた。こうして彼らは、天の聖所への道を教

えるはずであった五旬節の日の祝福を受けられないところに自らを置いた。神殿の幕が裂けたことは、ユダヤのいけにえと儀式がもはや受け入れられないことを示した。偉大ないけにえはささげられ、受け入れられた。そして、五旬節の日に降った聖霊は、弟子たちの思いを地上の聖所から天の聖所へと向けさせた。そこには、イエスがご自身の血によって入り、弟子たちにその贖いの恵みを注がれた。ユダヤ人は完全な欺きと全くの暗闇の中に取り残された。彼らは救いの計画について持ち得たはずのすべての光を失い、なおもむなしいけにえと供え物に信頼し続けた。彼らは、聖所におけるキリストの執り成しから益を受けることができなかった。天の聖所が地上のそれにとって代わったが、彼らは天の聖所への道について何の知識も持っていなかった。

多くの人は、ユダヤ人がイエスを拒み、ついには彼を十字架につけるに至った歩みを、戦慄をもって見つめる。そして、彼が受けた恥辱と虐待の歴史を読むとき、自分はキリストを愛しており、ペテロのように彼を否んだり、ユダヤ人のように彼を十字架につけたりはしなかつたらうと考える。しかし、御子に対する彼らの公言している同情を見てこられた神は、彼らを試し、彼らがイエスに対して公言したその愛を試みに付した。

天のすべては、そのメッセージがどのように受け入れられるかを、最も深い関心をもって見守っていた。ところが、イエスを愛すると公言し、十字架の物語を読みながら涙を流す多くの者が、そのメッセージを喜んで受けるところか、怒りにかき立てられてイエスのご再臨の福音をあざけり、それを惑わしだと断言する。彼らはその来臨を愛する者たちと交わろうとせず、むしろ彼らを憎み、教会から締め出した。最初のメッセージを退けた者は第二のメッセージから益を受けることができず、また、信仰によってイエスとともに天の聖所の至聖所に入る備えをさせるはずの「真夜中の叫び」からも益を受けなかった。そして先の二つのメッセージを拒んだことによって、至聖所への道を示す第三天使のメッセージのうちに、彼らは何の光も見いだせない。私は、名目上の諸教会が、ユダヤ人がイエスを十字架につけたのと同じように、これらのメッセージを十字架につけてしまったのを見た。ゆえに彼らは、天でなされた御働きや至聖所への道について何の知識も持たず、そこでのイエスのとりなしによって益を受けることもできない。役に立たぬいけにえをささげたユダヤ人と同様に、彼らはイエスが去られた部屋に、むなしい祈りをささげる。そしてサタンは、キリストの信奉を公言する者たちが欺かれていることを喜び、彼らを自らのわなにしっかりとかけ、宗教的な装いをまとって、これら自称クリスチャンの心を自分の方へ向けさせ、自らの力とするしと偽りの不思議をもって働く。彼はある者をこの方法で、またある者を別の方法で欺く。彼はさまざまな心に作用するよう、異なる惑わしを用意している。ある者は一つの欺きを恐ろしいものと見ながら、別の惑わしはたやすく受け入れる。サタンは心霊主義によってある者たちを欺く。また彼は光の御使いとして現れ、その影響力を全土に広げる。私は至るところに偽りの改革運動を見た。教会は有頂天になり、神が彼らのために驚くべき御業をなさっているのだと考えたが、それは別の霊であった。やがてそれは消え去り、世と教会を以前よりも悪い状態に残すだろう。

私は、名ばかりのアドベンチストや墮落した諸教会の中にも、神に誠実な子らがいるのを見た。そして、災いが注ぎ出される前に、これらの教会から牧師も信徒もなお呼び出され、彼らは喜んで真理を受け入れるだろう。サタンはこれを知っており、第三の天使の大いなる叫びの前に、これらの宗教団体の中に興奮を引き起こして、真理を

拒んだ者たちが神が自分たちと共におられると思ひ込むようにする。彼は、誠実な者たちを欺き、神がなお教会のために働いておられると思わせようと望んでいる。しかし光は輝き、誠実な者たちは皆、墮落した教会を離れ、残りの民の側に立つだろう。  
『靈的賜物』第1巻、151-172.

この一節には多くの重要な真理が含まれているが、私はこの一節を用いて、ミラー派の歴史におけるメッセージのいくつかの特性を抽出し、それらがどのように私たちの歴史を予表しているのかを理解しようとしている。黙示録14章の三天使はいずれも手にメッセージを携えている。第二と第三の天使は、そのメッセージとともに降りてくる際に「羊皮紙」を持っていると記されている。各天使は一つのメッセージを表しており、そのメッセージの到来は何らかの結果をもたらす。

この話題は次の記事で続けます。